

2014年2月7日

工学系学生国際交流基金報告書

派遣者氏名： 佐伯 友吾 S	
所属専攻・研究室・学年：物質科学専攻・矢野研究室・修士一年	
派遣先大学・専攻： パリ第六大学 IMPMC (Institute de Minéralogie et de Physique Milieux Condensés) 受入教員名：Laurent Cormier	
派遣期間：平成25年8月30日 ～ 平成26年1月5日	
申請カテゴリー： ☒ (C1)SERP ☐ (C2)AOTULE ☐ (C3-a)部局間協定校 ☐ (C3-b)全学協定校 ☐ (C4)その他	
研究（プロジェクト）題目： Neutron diffraction studies of silicate liquids by aerodynamic levitation and laser heating	

留学報告書

理工学研究科 物質科学専攻 矢野研究室 修士一年 佐伯友吾

派遣大学概要

【派遣大学】国立パリ第6大学 フランス (Université Pierre et Marie Curie – CNRS, Paris, France)

【創立】1971 年

【大学の規模】学生数 34,000 人(うち大学院生 12,000 人)、教官数 2,700 人、
(写真は大学中央にある、ザマンスキータワー、大学の事務所)



(写真:大学中央にある、ザマンスキータワー、大学の事務所)

研究室概要

【所属研究室】:Institute de Minéralogie et de Physique Milieux Condensé（鉱物、ガラスを主に研究している）

【研究概要】:Neutron diffraction studies of silicate liquids by aerodynamic levitation and laser heating

【研究室での過ごし方】毎朝9時に登校、夕方 5 時まで研究（月、水、木 フランス語の授業、毎回 2 時間 30 分）

【研究を行う上での課題】英語でのディスカッション、言いたいことが伝わらず意思疎通が難しかったです。微妙なニュアンスが伝わらないこと。必死に身振り手振りで伝えることに尽力しました。フランス語も頑張ってたので最後の方は会話もできるようになったと思います。



(写真:研究チームの前で研究成果の発表をした後)

パリでの生活

【生活】「毎日一つ新しいことをする」という目標を掲げ、美術館や名所などを毎日ひたすら回り続けました。そして頑張ってフランス語を使い、生活することによってフランス語の上達も目指しました。

【旅行】初めてのヨーロッパということもあり、フランス国内にとどまらず、オランダ、ドイツ、ベルギー、イギリスとお金と相談しながら旅行をしました



(写真:ベルギーまで行ってみたサッカー日本代表対オランダ戦)

住居

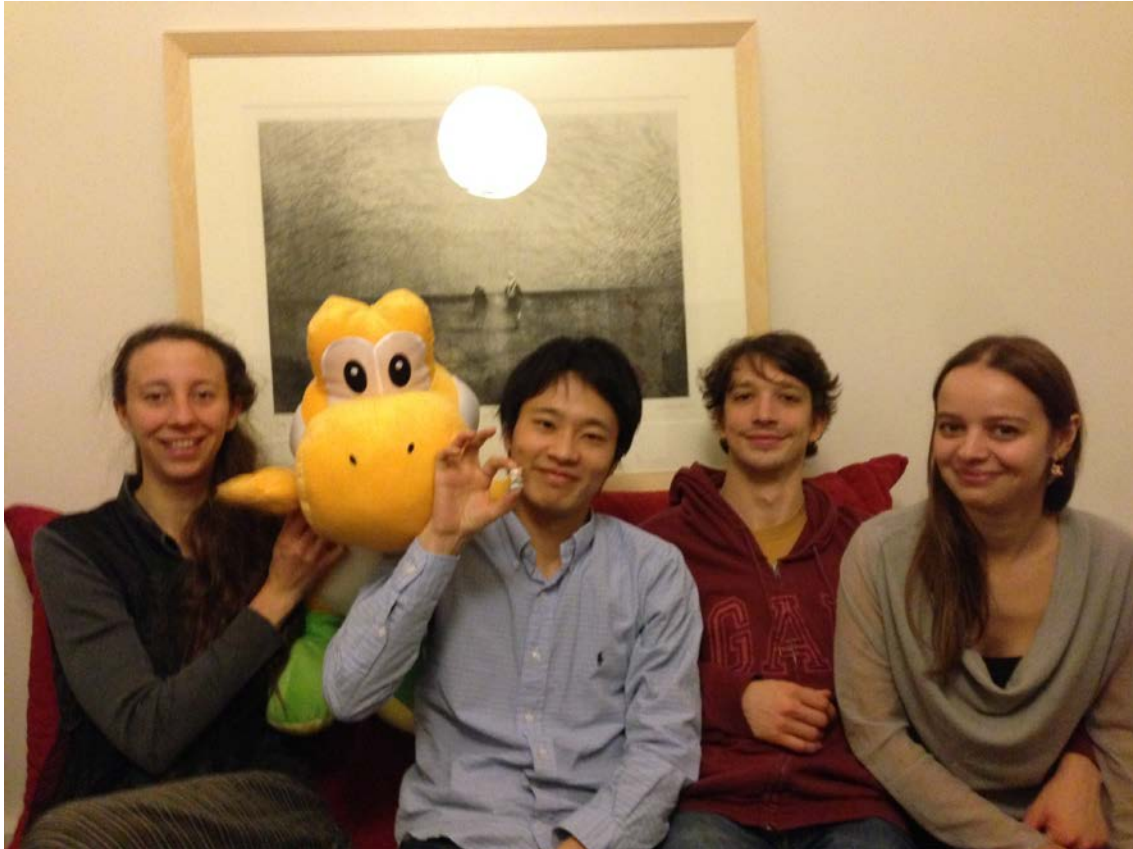
【部屋】部屋は狭く、トイレ、シャワールーム、キッチンと必要最低限のものしかないが家賃は 400€と他の国と比べては高かったです。(パリ市内では安いほう)

【生活スタイル】パリ市内の学生寮に住んでいたのでフランスの学生やそこに住んでいた日本人や韓国人の子たちとパーティーなどをして楽しみました。

留学で得られたもの

「本当の友達」。私の世話をしてくれたフランスの学生は本当に親切で常に気を配ってもらい、いろんなことで助けてもらいました。クリスマスには家族の夕食に誘っていただき、私にまでクリスマスプレゼントを用意してくれて、家族の温かさを感じました。家族や友人を一番に考えるかれらの考えを私は素晴らしいと思います。私もこの思いを忘れずに生活したいです。

後輩のみなさんには、価値観の違う友達を作り、自分の価値観と相手の価値観をちゃんとぶつけ合って、お互いの関係を深めて欲しいと思います。



(写真:私のチューターをしてくれた方と帰国前日に撮ったものです。)